

トラブル対応状況について

資料1補足

平成26年11月15日から平成26年1月31日までに発生した主なトラブル

※ 前報告以降に各自治体への通報連絡および公表を行った公表区分D以上の事故・トラブルです。

発生日	件名	概要
H26/11/27	2号機使用済燃料プール代替冷却系の停止	2号機使用済燃料プール冷却系の一次ポンプ(B系)が自動停止しました。冷却設備には異常が無かったことから、停止原因となった空気圧縮機の予備機を起動し、約4時間後に冷却を再開しました。停止時プール温度16.7℃→冷却再開時プール温度17.3℃。 原因は、弁の作動用の空気圧縮機が何らかの原因でスイッチが停止になっていたため、冷却設備の弁が閉まった事によるものと判りました。 再発防止として、意図しない接触による動作を防止するためスイッチカバーの接着力の強化、早期の圧力低下を検知するため新たに設置したwebカメラにて空気貯槽の圧力を毎日一回以上確認し記録採取する等の対策を行っております。
H26/12/17	Jタンクエリアからの水漏れ	J5タンクエリアとJ6タンクエリアの接続配管が一部接続されておらず、多核種除去設備(ALPS)の処理水が漏えいしました。 漏えいが広がった範囲の漏えい水と土砂については回収を行っております。 原因は、新設の配管へ水を送る際に、閉じておくべき弁が開いていたため、施工中の配管部分から漏水したことが判りました。 再発防止策として、初めて使用する配管の現場確認、施工中の配管と運用を開始している配管の間を仕切る弁の施錠管理などの対策を徹底する事としました。
H26/12/31	H2タンクエリアB2タンクフランジ部からの滴下	縦フランジ部から水の滴下が確認されましたが、その後の確認で、タンク内からの漏えいではないことが確認できており、結露水が滴下したものと推定しています。
H27/1/13	除染作業における昇降台車での負傷	2号機原子炉建屋1階除染作業のために、資機材(リフター)を動作しようとしたところ、レバー操作を誤り、鉛板を設置していた台車の作業台が倒れて作業員の頭部に接触しました。 救急車で病院へ搬送し手当・検査を受け、その後帰宅されています。
H27/1/15	G5タンクエリアでの左手負傷	G5タンクエリアにおいて、汚染水タンク雨水抑制対策工事に従事している作業員グラインダーで左手を負傷しました。救急医療室で手当を受け、救急車で病院へ搬送し、手当を受けております。
H27/1/16	重機(削孔機)からの油漏えい	重機(地面に穴を開ける削孔機)の油圧ホースから油が漏えいしていることを作業員が発見しました。その後、漏えいしている油圧ホースを取り外し、閉止栓を取り付けて漏えいは停止しています。なお、消防署からは「油漏えい事象」との判断を頂いております。
H27/1/19	雨水受けタンク天板部からの転落による死亡	建設中のJタンクエリア用雨水受けタンクNo. 2の内面防水検査を行うため、タンク内が暗かったことからタンク天板部より太陽光を入れるため、元請社員1名(被災者)がタンク上部へ昇り、天板部にあるマンホールの蓋を動かしたところ、被災者がマンホールの蓋(重さ:約51kg)とともにタンク内へ転落(高さ:約10m)し、その後、救急搬送された病院で死亡が確認されました。 翌日福島第二においても死亡事故が発生したことから、当社原子力発電所の全ての作業を中止し、現場の安全総点検を実施いたしました。
H27/1/19	5/6号淡水化装置の漏えい検知器動作	5・6号機北側に設置してある淡水化装置(RO)の漏えい検知器が動作しました。その後の調査で、設備からの漏えいは確認されず、漏えい箇所付近に仮置きしていた洗浄用水を入れたポリタンクのキャップより漏えいが確認されたことから、ポリタンク内の洗浄水が漏えいし検知器が動作したものと判りました。